

「がんの最先端治療とホリスティックなアプローチが共存する施設が提供するリボンスハウス・プログラム」(メディポリス医学研究財団(指宿))

原田美佳子先生(メディポリス医学研究財団附属医院院長)

滞在型プログラムを提供するリボンスハウスで、がん患者さんが就労に復帰するまでの間、心身共にリセットできるような環境を提供することで就労支援を後押ししています。

“ホリスティック”すなわち“全人的な健康観”をベースに置きながら、人間を“単なる臓器の集合体”と考えるのではなく、“体を持ち、心を持ち、スピリットを持ったバランスのとれた集合体”としてとらえて、様々なアプローチをおこなっています。2011年には粒子線治療センターが完成する予定で、最先端の重粒子線治療を提供していくことになっていますが、粒子線治療や手術でがんを取り除くことだけが目的となってしまうと、治療後は元の生活に戻ってしまいます。がんをきっかけに、自分の生き方や価値観をどのように変えていくことができるかが大切だと思います。“健康を維持するのも病気になるのも患者さん自身である”と考え、生活習慣ががんを引き起こす原因とされていることからライフスタイル、食事、心の持ち方を変えることなども重視し、指導しています。

今後は、この施設で集学的治療を実践していく予定で、手術は施設内ではできないものの、前述の重粒子線治療をはじめ、補助療法としての抗がん剤治療や放射線治療、免疫療法をはじめ、後述するハイパーサーミアを組み合わせるだけでなく、自然治癒力を高める自然療法や食事療法、心理療法やマッサージ・セラピーなどの手技療法、運動療法なども積極的に取り入れるような医療を提供していきたいと思っています。

ハイパーサーミアとは最近脚光を浴びてきている温熱療法の一種で、ラジオ波を使って患部を42度程度になるように温めることで、癌の直接壊死作用だけでなく、抗癌剤や放射線治療の感受性増強効果、体温が上昇することでの免疫賦活効果があらわれることを利用した治療です。

一時期、高価なわりには効き目が少ないといわれた免疫細胞療法もハイパーサーミアと組み合わせることによって効果が上がってきています。

ホリスティック医療・統合医療では様々な療法を組み合わせることが重要だと考えているので、その他にも漢方・鍼灸・気功・太極拳・中医学・アーユルヴェーダ・ヨガ・インドに伝わる医学・マッサージ・アロマセラピー・ホメオパシー・バッチフラワーレメディなどと組み合わせるアプローチをおこなっています。

また、メディポリスには豊かな森林・温泉・アスレチックジムがあるので、運動療法にも力をいれ、自分の体を自分で維持していくプログラムを提供しており、効果がみられた症例も報告されています。西洋医学では限界だと考えられても、希望を失う必要はなく、色々な治療を続けていけば可能性があることを信じられることが重要だと考えます。

入院病室からは錦江湾を一望でき、個室でご家族と一緒に滞在できるような部屋を用意しています。ご家族のみならず、がん患者さん同士でのネットワークも作れる環境を提供し



ています。がんの治療によってがんは無くなるものの、自然治癒力が一気に低下してしまいます。自然治癒力を高める努力でがんの再発をおさえる効果があると思われるので、治療が終わってからが正念場だと患者さんに伝えています。

メディポリスではホテルや温泉、プールなどの運動施設、粒子線治療センターなどの施設が充実しており、マンパワーの面でも保健指導師がいるなど、さまざまなアプローチが可能なので、各患者さんに合った治療を展開していきたいと思っています。